

RCEP と東アジア経済統合—世界経済の変化の中で—

清水一史（九州大学）

米中貿易摩擦をはじめとする保護主義の拡大と 2020 年に入ってからのコロナウイルスの世界的感染の拡大下で、2020 年 11 月に RCEP が東アジア 15 カ国によって遂に署名された。RCEP は、2011 年に ASEAN が提案して交渉を牽引してきたメガ FTA である。

東アジアでは、従来 ASEAN が経済統合を牽引してきた。1967 年に設立された ASEAN は、1976 年から域内経済協力を開始し、1992 年からは AFTA（ASEAN 自由貿易地域）を推進し、2003 年からは AEC（ASEAN 経済共同体）を目指してきた。2015 年末には AEC を創設し、現在、2025 年に向けて更に AEC を深化させている。また東アジアでは、ASEAN を中心とする地域協力が重層的に展開するとともに、ASEAN をハブとする ASEAN+1 の FTA も確立してきた。ただし東アジア全体の FTA は確立されなかった。しかし世界金融危機後の構造変化の中で TPP が推進され、その影響を受けて 2011 年に ASEAN が RCEP を提案した。その後 RCEP は交渉を妥結できなかったが、2020 年 11 月に、保護主義とコロナ拡大の厳しい状況の中で、遂に東アジア 15 カ国によって協定が署名された。

RCEP の署名と発効は、東アジアにも世界経済にも大きな意義がある。RCEP は成長を続ける東アジアのメガ FTA であり、世界の GDP・人口・貿易の約 30%を占める巨大な FTA となる。ASEAN にとっては、ASEAN が提案して交渉を牽引してきたメガ FTA が署名された。そして東アジア経済統合における中心性を確保できた。今後、重要であるのは、ASEAN がイニシアチブを確保し続ける事である。RCEP は、日本と北東アジアにとっても大きな意義がある。RCEP により、従来確立されていなかった日本と中国、日本と韓国間の FTA が構築される。インドは、2020 年に署名は出来なかったが、いつでも戻る事ができる仕組みになっている。

更に RCEP の実現は、現在の保護主義に対抗し、現在の状況を逆転していく契機となる可能性がある。すでに発効されている CPTPP と日本 EU・EPA とともに、東アジアのメガ FTA である RCEP の実現は大きなインパクトを持つであろう。